

このまま強行していいのか！ 東海道新幹線車掌3人→2人 ホントに異常時に十分な対応ができるのか？

会社は3月から、東海道新幹線の車掌を2人（1人減）にして、減らした分を業務委託した協力会社（JRCP）社員のパーサーに置き換えようとしています。未だ多くの新幹線乗務員が懸念・不安・怒りを持っています。

因みに、のぞみ34号に乗務していたJR西日本の3人の車掌のうち一人は「客室乗務員」と呼ばれるJR西日本の契約社員でした。

報道によれば会社は「パーサーは異常を感知したら車掌に報告するよう定期的に訓練している。十分連携できる。車掌が一人減っても安全面に問題はない」と主張しているようです。「十分な連携」は3人の車掌が乗務していることが少なくとも前提です。

パーサーは、新幹線車両の台車をはじめとする車輛の知識を持ち合わせていませんし、走行中「何か変だ」と思っても列車を止める権限は持っていません。さらに、そもそも車輛に関する知識がないのですから、これまで車掌が行っていた床下点検などはできません。

会社はこの間、「安全に関することは直営で」と明言していました。新幹線乗務員の皆さん！1,300名もの乗客を乗せて速度285^{km/h}で走行する東海道新幹線の安全を守るのは我々しかいません。あきらめず、車掌削減反対の声を上げましょう！

※なお、マスコミ記事はJR東海労組合員に声を掛けて下されば、ご紹介します。

マスコミも異常時対応に懸念の論調！